



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年8月13日

上場会社名 株式会社一家ホールディングス 上場取引所 東
コード番号 7127 URL <https://ikka-holdings.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 武長太郎
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 高橋広宜 (TEL) 047-711-0850
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	2,601	12.2	△17	—	△27	—	△23	—
2025年3月期第1四半期	2,319	6.1	△72	—	△76	—	△54	—

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 18百万円(—%) 2025年3月期第1四半期 △40百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	△3.26	—
2025年3月期第1四半期	△7.62	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失のため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	5,853	917	15.1
2025年3月期	5,709	897	15.1

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 883百万円 2025年3月期 864百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期	—				
2026年3月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	11,629	15.3	320	—	286	—	179	25.03

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

2. 当社は年次での業績管理を行っておりますので、第2四半期(中間期)の連結業績予想の記載を省略しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 一 、除外 一社 (社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期1Q	7,170,800株	2025年3月期	7,134,800株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	一株	2025年3月期	一株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期1Q	7,152,998株	2025年3月期1Q	7,115,700株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 有 (任意)
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通しに関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではなく、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境に改善が見られるなど緩やかな回復基調を維持している一方、依然として原材料費・エネルギーコストの高騰、円安進行などの影響が長期化しているほか、米国による世界各国への大規模な関税政策の発動による世界経済への影響など、未だ景気の先行きは極めて不透明な状況が続いております。

外食業界におきましては、アフターコロナでの人流の増加に加え、インバウンド需要も回復基調である一方、原材料費・光熱費等の高騰や人材不足及び採用コストの増加など、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、『あらゆる人の幸せに関わる日本一のおもてなし集団』というグループミッションのもと、より多くのお客様におもてなしによって感動を提供するために、優秀な人材の確保及びサービス力向上、各ブランドのブランド力向上に注力してまいりました。

飲食事業においては、新規出店、既存店のサービス力向上及び店舗オペレーションの改善、各業態における外部販促強化による新規客数の増加、自社アプリなどの会員獲得によるリピーター客数の増加に継続して注力してまいりました。

新規出店に関しては、ドミナントエリアへ2店舗（大衆ジンギスカン酒場ラムちゃん 成田店・こだわりもん一家 成田店）を新規出店したほか、「韓国屋台ハンサム 汐留店」を「寿司トおでんにのや 新橋汐留店」に、「韓国屋台ハンサム 渋谷店」を「屋台屋博多劇場 渋谷宮益坂店」に業態変更いたしました。また、今期よりバーベキュー・ビアガーデン業態の店舗については子会社である株式会社一家レジャーサービスでの運営に切替え、レジャー事業セグメントとして計上しております。これらの結果、飲食事業の直営店店舗数は89店舗となりました。

既存店（屋台屋博多劇場業態・こだわりもん一家業態・大衆ジンギスカン酒場ラムちゃん業態・にのや業態・韓国屋台ハンサム業態）客数は前年同期比5.9%減で推移した一方、既存店客単価は前年同期比7.1%増で推移し、既存店売上高は前年同期比0.8%増となりました。

ブライダル事業においては、近年、少子化やいわゆる「ナシ婚」の増加による婚礼件数の減少に加え、結婚式のニーズの多様化により少人数婚のニーズが高まり、婚礼1組当たりの組人数も減少傾向にある中、婚礼の主力広告媒体との連携強化、SNSを活用したブランディング強化による来館数・成約率の向上、サービス力向上及びコスト削減、宴席の新規案件の取り込み及びリピーター客数の増加、レストランのサービス力、商品力の向上及び新規客数の増加にも継続して注力してまいりました。

婚礼の施行数については、前期の受注が好調に推移したことが奏功し、前年同期比で増加いたしました。一方で、組人数・組単価については、小人数での挙式件数の割合が高まったことにより、前年同期比で減少いたしました。そのほか、宴席及びレストランについては好調に推移いたしました。

レジャー事業においては、バーベキュー・ビアガーデン業態の3店舗運営のほか、2025年11月にオープン予定の「THE BOTANICAL RESORT『林音』（ザ ボタニカルリゾート リンネ）」の開業準備に注力してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は2,601,184千円（前年同期比12.2%増）、営業損失は17,314千円（前年同期は営業損失72,594千円）、経常損失は27,902千円（前年同期は経常損失76,715千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は23,341千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失54,231千円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 飲食事業

売上高は2,082,224千円（前年同期比7.3%増）、セグメント利益（営業利益）は30,425千円（前年同期のセグメント損失（営業損失）は2,724千円）となりました。

② ブライダル事業

売上高は443,356千円（前年同期比17.2%増）、セグメント損失（営業損失）は63,317千円（前年同期のセグメント損失（営業損失）は75,040千円）となりました。

③ レジャー事業

売上高は75,004千円（前年同期は売上高一千円）、セグメント利益（営業利益）は5,120千円（前年同期のセグメント損失（営業損失）は1,210千円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（総資産）

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び預金が126,682千円減少したものの、新規出店等に伴い有形固定資産が176,248千円、投資その他の資産のその他が69,172千円増加したことなどにより、5,853,895千円（前連結会計年度末比143,982千円の増加）となりました。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債は、未払金が41,994千円、長期借入金が42,370千円、固定負債のその他が31,933千円増加したことなどにより、4,936,767千円（前連結会計年度末比123,926千円の増加）となりました。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上に伴い利益剰余金が23,341千円減少したものの、その他有価証券評価差額金が40,415千円増加したことなどにより、917,127千円（前連結会計年度末比20,056千円の増加）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間における業績が概ね当初計画通りに進捗していることから、2026年3月期の業績予想については、2025年5月14日公表の「2025年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」に記載の予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,454,656	1,327,974
売掛金	366,906	384,016
その他	250,457	259,316
貸倒引当金	△287	△79
流動資産合計	2,071,732	1,971,229
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,659,631	2,802,775
減価償却累計額	△1,014,041	△1,025,536
建物及び構築物（純額）	1,645,590	1,777,238
その他	1,034,613	1,089,495
減価償却累計額	△726,541	△736,822
その他（純額）	308,072	352,673
有形固定資産合計	1,953,663	2,129,911
無形固定資産		
のれん	2,801	2,451
その他	16,984	18,813
無形固定資産合計	19,786	21,264
投資その他の資産		
敷金及び保証金	862,040	862,037
繰延税金資産	384,383	381,973
その他	418,305	487,478
投資その他の資産合計	1,664,730	1,731,489
固定資産合計	3,638,179	3,882,666
資産合計	5,709,912	5,853,895

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	275,839	264,916
1年内返済予定の長期借入金	820,290	832,628
未払金	511,799	553,794
未払法人税等	11,515	5,268
資産除去債務	4,096	-
その他	245,896	256,425
流動負債合計	1,869,437	1,913,032
固定負債		
長期借入金	2,467,666	2,510,036
資産除去債務	317,195	323,222
その他	158,542	190,475
固定負債合計	2,943,403	3,023,734
負債合計	4,812,841	4,936,767
純資産の部		
株主資本		
資本金	42,494	43,250
資本剰余金	1,209,667	1,210,423
利益剰余金	△410,696	△434,038
株主資本合計	841,465	819,636
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	23,253	63,669
その他の包括利益累計額合計	23,253	63,669
新株予約権	22,555	22,555
非支配株主持分	9,796	11,266
純資産合計	897,070	917,127
負債純資産合計	5,709,912	5,853,895

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	2,319,116	2,601,184
売上原価	771,259	842,331
売上総利益	1,547,857	1,758,853
販売費及び一般管理費	1,620,451	1,776,168
営業損失(△)	△72,594	△17,314
営業外収益		
受取手数料	207	315
利子補給金	1,057	468
その他	1,874	436
営業外収益合計	3,139	1,220
営業外費用		
支払利息	6,689	10,426
その他	571	1,381
営業外費用合計	7,261	11,807
経常損失(△)	△76,715	△27,902
税金等調整前四半期純損失(△)	△76,715	△27,902
法人税、住民税及び事業税	2,676	5,268
法人税等調整額	△26,094	△11,299
法人税等合計	△23,418	△6,031
四半期純損失(△)	△53,297	△21,870
非支配株主に帰属する四半期純利益	933	1,470
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△54,231	△23,341

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純損失(△)	△53,297	△21,870
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,272	40,415
その他の包括利益合計	13,272	40,415
四半期包括利益	△40,024	18,544
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△40,958	17,074
非支配株主に係る四半期包括利益	933	1,470

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額
	飲食事業	ブライダル 事業	レジャー事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	1,940,720	378,396	—	2,319,116	—	2,319,116
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上 高	1,940,720	378,396	—	2,319,116	—	2,319,116
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—	—
計	1,940,720	378,396	—	2,319,116	—	2,319,116
セグメント損失 (△) (注) 2	△2,724	△75,040	△1,210	△78,975	6,381	△72,594

(注) 1. セグメント損失の調整額には、全社収益及び全社費用が含まれております。全社収益はグループ会社からの経営指導料等であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額
	飲食事業	ブライダル 事業	レジャー事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	2,082,224	443,356	75,004	2,600,584	600	2,601,184
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上 高	2,082,224	443,356	75,004	2,600,584	—	2,601,184
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—	—
計	2,082,224	443,356	75,004	2,600,584	600	2,601,184
セグメント利益又は 損失(△) (注) 2	30,425	△63,317	5,120	△27,771	10,456	△17,314

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、全社収益及び全社費用が含まれております。全社収益はグループ会社からの経営指導料等であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

3 報告セグメントの変更等に関する情報

前第4四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「レジャー事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	58,551千円	68,251千円
のれんの償却額	350千円	350千円

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年8月13日

株式会社一家ホールディングス
取締役会 御中

晴磐監査法人

東京都新宿区

指定社員
業務執行社員

公認会計士 浅 野 博

指定社員
業務執行社員

公認会計士 佐 藤 衛

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社一家ホールディングスの2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2025年4月1日から2025年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社(四半期決算短信開示会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは期中レビューの対象には含まれていません。